

芸術（音楽）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた、音楽科における主体的・対話的で深い学びの実現～

(2) 研究のねらい

能を扱った鑑賞の題材を通して、生徒が楽曲をより自分事として捉え、その価値について考えていくことができる題材計画について研究を行った。また、上記テーマを踏まえ、能の音楽表現の特徴を主体的に学習していくための活動、ワークシート及び問いについて検討を行った。

2 実践事例

(1) 題材指導計画

ア 科目名：音楽 I

イ 題材名：音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう

ウ 題材の目標：

- ・能の音楽表現の特徴について理解する。
- ・音楽を形づくっている要素「音色・速度・リズム(間)」を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴く。
- ・能の音楽表現の特徴に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
能の音楽表現の特徴について理解している。	音楽を形づくっている要素「音色・速度・リズム(間)」を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。	音色、速度、リズム(間)などの、能の音楽表現の特徴に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

オ 題材の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>◆能の音楽について興味や疑問をもつ。</p> <p>○能に対するイメージを言語化する。 ・今ある知識や能に対する自分のイメージを挙げ、活動1に記入する(図9-1)。</p> <p>○能「道成寺」の一場面の音楽を聴いたり歌ったりしながら特徴を捉える。 ・謡を聴いて、普段聴いている音楽との違いについて感じたことや気付いたことを活動2に記入する(図9-1)。</p>				● 態 〈活動2(図9-1)〉

	<ul style="list-style-type: none"> ・「急之舞」から「鐘入り」までの場面の音楽を繰り返し聴き、「春の夕暮れ」からの謡の歌詞を聞き取り、活動3に記入する(図9-1)。 ・謡の解析をする。(伸ばし、音の上下、音色や強弱等) ・音色や速度に着目しながら謡を歌う(図9-1活動4)。 ・歌詞の聞き取りや謡の活動から気付いたことを活動5に記入する(図9-2)。 ・歌詞の内容の説明を聞き、理解した上で、「急之舞」から「鐘入り」までを映像付きで鑑賞する。 ・第2時のジグソー活動の役割分担をする。 	●		<p>知(活動5(図9-2))</p> <p>聴かせるだけでなく、謡を実際に歌って音楽を形づくっている要素に着目させ、生徒が感性を働かせることができるよう能動的な場面を設定して丁寧に指導する。</p> <p>*毎時の冒頭に、謡に親しむために「春の夕暮れ」からの謡を歌う。</p>
2	<p>◆能に関する知識を深める。</p> <p>○能について自分の言葉で説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器・謡・「道成寺」のストーリー・能の歴史を各グループに分かれて、協力しながら調べ、活動6に記入する(図9-3)。 <ul style="list-style-type: none"> ・元のグループに戻り、調べた内容を共有し、活動7に記入する(図9-3)。 ・前時の学習と調べ学習から分かったことを踏まえて、改めて能の印象を活動8に記入する(図9-3)。 <ul style="list-style-type: none"> ・「乱拍子」の場面を見て疑問に思ったことを活動9に記入する(図9-3)。 	●		<p>調べる過程で「急之舞」から「鐘入り」までの映像を生徒が自由に観たり聴いたりできるよう準備する。調べる過程で、調べたことが実際に表現されているのか確認しながら行うよう促す。</p> <p>知(活動7(図9-3))</p> <p>● 態(活動8(図9-3))</p> <p>前時の活動とジグソー法による調べ学習で能の印象がどのように変化したのかを評価し、指導に生かす。</p>
3 研 究 授 業	<p>◆比較や体験を通して能を客観的に鑑賞する。</p> <p>○他ジャンルの音楽との比較から特徴を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「急之舞」から「鐘入り」までの音楽、「乱拍子」の音楽を他ジャンルの音楽と比較し、両者の 			<p>音楽を形づくっている要素「音色・速度・リ</p>

		<p>共通点と相違点について考え、活動10に記入する(図9-4)。</p> <p>○乱拍子の場面において、小鼓の演奏とシテの動き、間や緊張感をどのように作っているのかを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で映像に背を向け、音に合わせて動きを真似し、舞の体験をする。 ・小鼓、掛け声を、映像を見ながら全員で真似し、特徴を感じる。 ・実際にペアに分かれて乱拍子の体験をして、感じたこと、分かったことを共有しながら活動11に記入する(図9-5)。 	●		<p>ズム(間)」に着目することができるよう、楽曲の音色と曲想の関わりや曲中に変化する速度の特徴など、全員で確認しながら指導する。また、乱拍子のリズムについて、「そもそもこの場面にリズムやテンポは存在しているのか」を確認していく。</p> <p>知〈観察〉 小鼓の演奏とシテの動きの体験から、リズム(間)と無音から生まれる緊張感を、実感を伴って理解することができるよう、丁寧に指導する。</p>
2	4	<p>◆「能」や「能の音楽表現」について自分なりの考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春の夕暮れ」からの謡と乱拍子の体験活動を復習する。 <p>○能の音楽の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を踏まえて、ペアやグループで意見交換しながら能の音楽の特徴を活動12に記入する(図9-5)。 <p>○能の魅力を音楽的な側面を伴ってまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの取組や活動12を踏まえて、「能を知らない人や外国の人に魅力を伝えよう」というテーマで、能の魅力についてスライドにまとめる(図9-5)。 	○		<p>知〈活動12(図9-5)〉</p> <p>思〈スライド「能を知らない人や外国の人に魅力を伝えよう」〉</p>
3	5	<p>◆「能」や「能の音楽表現」について自分なりの考えをもつ</p> <p>○今までの学習を踏まえ、能の音楽の良さや美しさを自ら味わいながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドにまとめたことを発表する。 ・今までの学習、自分が感じた能の音楽の良さや美しさを振り返りながら、「道成寺」を鑑賞する。 	○	○	<p>思〈スライド〉 態〈観察〉〈スライド〉</p>

研究実施校：神奈川県立藤沢総合高等学校(全日制)
 実施日：令和5年11月29日(水)
 授業担当者：大野 みどり 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント
 本題材における「主体的・対話的で深い学び」について、鑑賞題材で取り上げる楽曲を生徒がより自分事

として捉え、その価値について考えていくためにはどのような学習が有効なのか、また、日本の代表的な舞台芸術である能の音楽表現の特徴を軸として学習するためにはどのような活動が有効かを推進委員会で考え、その具体について会議を重ねた。音楽を聞かせたり映像を見せたりするだけでなく、実際に謡を歌ったり、舞と音楽との関わりを体験したりすること、ジグソー学習、他ジャンルの音楽と比較するなどの活動を行うことで、より主体的に学習に取り組むことができるのではないかという結論に至り、本題材を設定した。完成した単元(題材)指導計画とワークシートをもとに研究授業を行い、個人の取組や班、ペアにおける活動の様子、また題材終了後の生徒のワークシートの記述から検証を行った。

ア 指導の検証

本題材では、実感を伴った知識の習得ができるように様々な視点からの活動を取り入れた。能全体の知識やその面白さを理解しつつ、その音楽表現に焦点化し、能に係る音楽表現の特徴について学習した。

能「道成寺」の物語の中で本題材の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素「音色・速度・リズム(間)」を知覚・感受することができる場面を精選し、本編「急之舞から鐘入りまで」、「乱拍子」の二つの場面に絞ることとした。

「急之舞から鐘入りまで」の謡「春の夕暮れ」では、映像を観ずに音だけで歌詞の聞き取りをすることから始め、歌い方や抑揚などを他者と協力しながら分析し、最後に実際に歌うことで、生徒が能をより音楽的に捉えることができると想定した(図1)。実践の結果、映像ではなく音や音楽に着目しながら、聞こえたことから鑑賞していくことができたため、舞台芸術である能を音楽の視点で考えていくきっかけとなった。謡を歌う活動は、毎時間授業の開始時に取り入れることとした。はじめは「音」として認識していた謡も回数を重ねるうちに内容や声色、情景等も踏まえた「音楽」として捉えることにつながった。

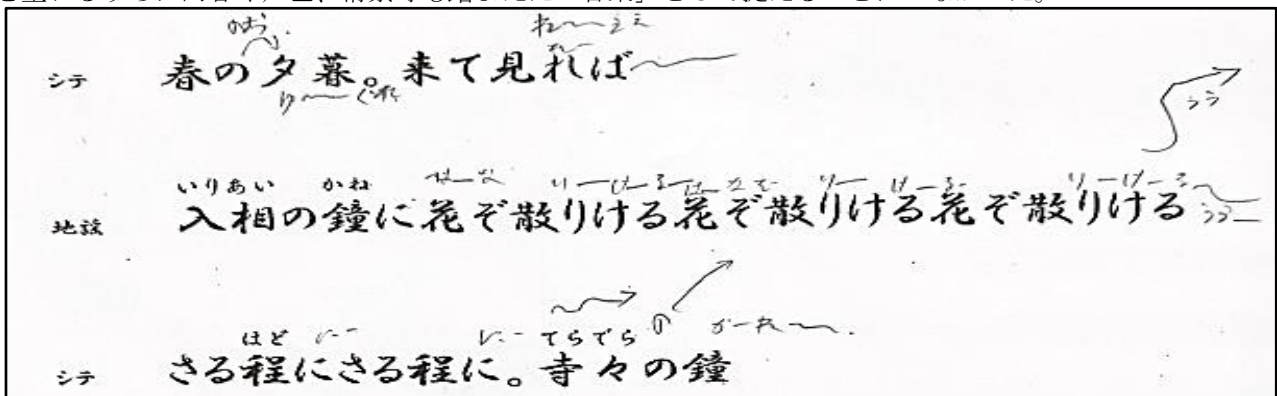


図1 謡を分析する活動における生徒の記述

気づいたこと(特徴)	感じたこと・分析
発声方法	のびとしい、おほかから出てくる イヨーは裏声? ビブラート
楽器	たいこ、笛 後半にワタがたが気がする ↑ 大きいのと小さいの
速度	後半にいくにつれ速くなる ゆっくりになるところもある
リズム(のびり)	言葉によってのびりところとのびりないところがある 後半は一文字ずつ一定のリズムがワタ
音程	おぼろとこは 分かりやすい 鐘の音程がはっきりしている

図2 活動5の生徒の記述

活動5は謡の歌詞の聞き取り、分析、実際に歌う一連の活動から感じたことや気が付いたことを記入する。生徒の記述から、音色や速度を少しずつ知覚していると考えられる(図2)。一方で、「独特な発声方法」「男性の声」等の曖昧な記述、発声方法か楽器どちらか一方についての記述にとどまっているなど、具体性に乏しい部分も多く見られ、指導時間や活動の方法について課題が残った。改善に向けて、気が付いたこと(特徴)の項目について具体的に提示する等の改善策が考えられる。

他のジャンルの音楽と比較し特徴を探る学習において、実践事例では、急之舞から鐘入りまでとグスターヴ・ホルスト「大管弦楽のための組曲『惑星』作品32より木星」(以下、「木星」という)、乱拍子とジョン・ケージ「4'33"」を比較し、生徒がその共通点と違いについて考えた。「木星」との比較では西洋音楽との音色の違いや速度(拍子感やテンポ感)の違い、「4'33"」との比較ではリズム(間)と緊張感の関わりについて考えることができると考え選曲した。また、「木星」については、研究実施校では既習した楽曲であったため、学習したことを本題材でいかすことができるのではないかと考えた。その結果、図3のように音色や曲想から、雰囲気の違いを感じている記述がみられるが、速度(拍子感)については、「どのように変化しているのか」や「変化の違いと曲想との関わり」など、生徒がより具体的に速度について触れることができるよう丁寧に指導していく必要があることが分かった。図4では、共通して音のない緊張感について触れることができている。また、リズム(間)と緊張感による表現効果が、ジャンルによって違うことも感じ取ることができているため、「4'33"」との比較では生徒がリズム(間)と緊張感の関わりについて考えることができたといえる。

急之舞の特徴	(木星)の特徴	共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> テンポがだんだん速くなる うたのリズムの速さが一定じゃない 怖い雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> テンポが速い 使われている楽器が色々 明るい雰囲気 音のほろりとした感じ 	<ul style="list-style-type: none"> 速度の変化がある 打楽器はどちらも使われている 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の種類 テンポ 雰囲気 音のほろりとした感じ

図3 急之舞と「木星」の比較活動における生徒の記述

乱拍子の特徴	(4分33秒)の特徴	共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> 一定の拍を感じない 声伸びるから 静か ゆっくり 	<ul style="list-style-type: none"> 意図が読めない ずっとな緊張する 音がないから、静か 	<ul style="list-style-type: none"> 拍がない 静か ほとんどなく緊張する 	<ul style="list-style-type: none"> 音の有無 伝統、現代 現代、伝統

図4 乱拍子と「4'33"」の比較活動における生徒の記述

乱拍子の場面において、小鼓の演奏とシテの動き、間や緊張感をどのように作っているのかを捉える活動は、小鼓、掛け声からなる音楽と舞の関わりを実際に体験することで、無音も含めた「音」の表現に魅力を感じることができるのではないかと考え、設定した。この活動は、まず、音に合わせた舞の動き、小鼓を叩くタイミング、掛け声の抑揚や長さを映像と音で確認しながら真似をする。その後、グループ内で役割分担をして、生徒のタイミングで「乱拍子」を表現する活動である。この活動のねらいは「どのタイミングで音が入るのか分からない」から「なぜ分からないのか」、「拍子やテンポなどの基準がないから」から「この場面ではそもそもそのような基準があるのか」から始め、ここで表現したいことを無音も含めた「音」でどのように表現しているのかを考えていくことである。実践事例では、「何秒待つのか」「音に集中すればピッタリ合うかもしれない」「間が多い・独特」「実践すると難しさが分かる」など、授業中の発言やワークシートの記述から、演者の目線から音楽表現について考えることができた。比較する学習で感じたことと関わらせて「音の無い時間を感じ取る」「日本の音楽には間が大切」など、実感を伴いながら、思考力、判断力、表現力等を育むための下地となる知識を習得することができた(図5)。



図5 生徒が乱拍子を体験する活動の様子

イ 評価の検証

(ア)知識・技能

知識の評価について、今回は能の音楽表現の特徴を理解しているかを見取ることとしているため、記録に残す評価の場면을精選した。第1時からのそれぞれの活動を指導に生かす評価、第3時までの活動内容全体を踏まえた音楽表現の特徴の記述を記録に残す評価とし、おおむね妥当な内容を書いているかを判断した。図6のように生徒は音楽を形づくっている要素と能の音楽表現の関わりについて、本題材で学習したことを踏まえながら感じたことや気付いたことを書いていると考えられる。また、生徒Bには、記述にある言葉と音色の関わりを謡の活動を中心に一緒に振り返り、フォローアップしていくことで、より内容全体を踏まえた音楽表現の特徴の理解につながっていくと考えられる。なお、図6の生徒の記述については、趣旨に影響がない範囲で言葉や表現を整える等の加筆をした。

活動12(図9-5) 今までの活動を踏まえて、能の音楽の特徴を記入しましょう	
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> 音の余韻を大事にしている感じがした。 テンポが不規則だから難しい、音が出るタイミングが分からない。 緊張感がある。 声や足音、楽器すべて含めて能の音楽だと感じた。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> 間が多いため、小鼓と舞を担当する人は合わせるのがすごく難しい。 間が多い、ゆっくりだからすごく緊張感がある。 音、音程よりも言葉が大事。

図6 活動12の生徒の記述より抜粋

(イ)思考・判断・表現

本題材は思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を「音色・速度・リズム(間)」と設定し、第3時までに学習した知識を生かし、第5時の発表に向けて能の音楽表現の魅力についてスライドにまとめた(図7-1、2)。本題材では自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えていく必要がある。この問いについて考えていくために「能を知らない人や外国の人に魅力を伝えよう」という問いに設定した。題材のはじめでは、能の分かりにくさに困惑していた生徒が、学習の支えとなる「音色・速度・リズム(間)」に焦点を当てることで、音楽表現の特徴を捉えることができた。そのことが能の音楽表現の面白さについて考えることにつながったと考えられる。

2

謡 (声楽)

能の謡(うたい)はストーリーを展開させる役割を担っている

～能の謡の魅力～

- 歌う速さが一定ではない—歌詞に重みが出る
- 女性の役も男性の声のまま歌うというストーリー展開の役割とは矛盾が生まれることをしています。そのことから能はその矛盾よりも独自の音楽を大切にしているのです。

3

舞 (乱拍子)

白拍子が特殊な足遣いで舞う舞のことを指す

～魅力～

静かな時間と音のある時間がある

静かになったところに鳴る楽器の音はその役の意図や、感情が読み解きやすい

演者の訴えや気合が伝わる

図7-1 生徒が作成した「能を知らない人や外国の人に魅力を伝えよう」についてのスライドより抜粋(生徒C)

3. 能の価値とは

- ・謡や囃子とともにシテが動き、物語に合わせて小道具が登場したりといったように、役割分担がしっかりしていて、それぞれが息を合わせて役割を果たし、一つの芸術が完成しているというところに、能が成り立つことの価値を感じた。
- ・目につきやすいシテや小道具だけでなく、囃子や謡にも注目することで、能の音楽的要素に着目することができた。
- ・今まで能は劇の印象が強かったけど、能を音楽としてとらえることで、使用されている楽器や囃子の音色など、別の視点で総合芸術である能のよさを感じる事ができた。

図7-2 生徒が作成した「能を知らない人や外国の人に魅力を伝えよう」についてのスライドより抜粋(生徒D)

(ウ)主体的に学習に取り組む態度

本題材を通してワークシートや観察から継続的に見取り、他の観点の評価との関連を図った。また、最初にワークシートの活動1に記入した能に対するイメージ、ワークシートの活動8に記入した謡や調べ学習を行った上で改めて受けた印象、スライド作成、題材の終了時の振り返りから、「自身の変容を自覚できる場面」を設定し、総括的に評価した。鑑賞は表現の題材に比べ、振り返りシート等を活用した自身の学習の見通し・振り返り等の活動が難しいため、毎時間の自らの学習状況を俯瞰することが重要であると考えた。また、題材のゴール(最終的に何について考える学習であるか)を明確にすること、そこに向っているかを生徒自身が確認できる場面を設定することで、自己調整しながら粘り強く学習に取り組むことができると考えられる。

本題材の事後に取ったアンケート内「今回の能の学習では、最終的にどのようなことを考える学習だったか、分かっていたか？」という質問の結果は、86パーセントの生徒が「はい」と回答している。今回の題材では、生徒自身が最終的にどのようなことを考える学習だったかをおおむね理解できていたと考えられ、それが学習状況を俯瞰することにつながり、題材の問いに向かうことができたと考えられる。「いいえ」と回答した14パーセントの生徒は、多様な活動の中で題材の目標と思考・判断のよりどころが見え難くなってしまったと考えられる。適切な場面で、目標や題材の問いと活動との関わりを改めて確認していく必要があった。

推進委員会では、本題材における主体的に学習に取り組む態度の評価規準を「音色、速度、リズム(間)などの、能の音楽表現の特徴に関心を持ち、能の音楽表現の魅力や価値について考え、表現している姿」とした。そのためには、生徒が楽曲をより自分事として捉えていく必要があると考える。図7-1の記述は、本題材の多様な活動を通して能の音楽表現の魅力を感じ、自分にとっての価値を見いだすことができたと考えられ、自分事として捉えることができたといえる。

(3) まとめ

今回の実践事例では、謡の歌詞の聞き取りと実践、ジグソー活動での調べ学習、比較、「乱拍子」の体験など多様な活動を取り入れた。これは、生徒が楽曲をより自分事として捉え、その価値について考えていくため、能の音楽表現の特徴を、実感を伴った知識として習得するための工夫である。推進委員会ではこの多様な活動を、あくまでも評価規準に示した【知識】を身に付けるための活動であることを見失わないよう留意した。見たこと、聴いたことから「実践すること」で、知識の活用につながるのと同時に、そこから思考を働かせて提示した疑問や課題に取り組もうと試行錯誤する姿が見受けられた。また、一つひとつの活動を行う際に、「何を目的として実施するのか・どのようなことを体感してほしいか」など目的を周知することで生徒はゴールを見据えた取組につながった。題材の目標を意識することにより、学習活動が「楽しい活動」で終わることなく、見通しをもって「今自分はゴールに向かうために〇〇まで理解した」というメタ認知につながると考えられる。

推進委員会では、能という題材を学習する上で、改めて「指導に生かす評価」の重要性が取り上げられた。生徒が能の音楽表現に魅力を感じ、自分にとっての価値を見いだすことができるよう指導するためには、毎回の授業の観察やワークシートから学習状況を把握し、次の指導改善を行っていくことが必要である。そのために生徒の学習状況を観察などによって継続的に見取り、それぞれの評価を記録に残す場面で総括的に評価することができるように計画した。また、学習を進める中で、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒一人ひとりの面白い気付きや学びの進歩について、「個人内評価」を行えるように声掛けを行った。正解が分かりにくい、または幅広い知覚・感受が可能な音楽の授業において、「自分が感じたことや気が付いたことは正しいのだろうか」「他者はどのように考えているのだろうか」という疑問に対して、授業者が価値付けを行うことにより、その先の学習の方向性を適切に示すことが可能になる。目標と評価の三つの観点を関連させながら、生徒の学習を充実させるために、題材の指導と評価の計画を丁寧に作成する事が重要である。また、日頃の授業改善が、授業の方法や技術の改善のみにならないよう、「生徒」を主語として、指導と評価の一体化を実現できるように留意したい。

音楽1 ()組 ()番 氏名

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう

△1時間目：能って何だろう？

活動1 能と聞いて、今ある知識や、自分の持つ率直なイメージについてあげてみましょう！

思いつくまま、箇条書きOK、正解を担わなくてよし！

活動2 能の一場面の音楽のみを鑑賞して、自分が普段聴いている音楽との違いについて書いてみましょう。

些細なことでも、気づいたことをたくさん書いてみよう（単語・箇条書きetc…）

活動3 謡の歌詞を聞き取ってみましょう！
か今から流れる謡を聴いて、クラスで協力して歌詞を完成させよう！

聞き取れた言葉をメモ

最終的に何と聴いていた？→「 」

活動4 謡を体験してみましょう！

Step1: 歌詞を読みましょう
Step2: 解析してみましょう
Step3: 実際に歌ってみよう！

→音程（高くなる・低くなる）・テンポ（速い・遅い）・伸ばし・呼吸（プレス）・区切り・強弱などを歌詞にメモを取りながら聴いてみましょう。

図9-1 ワークシート1

活動5 能の音楽を聴いたり(活動2)のメモを見返してみよう！)実際に謡を体験したりして、改めて気づいたこと・感じたことを表にまとめてみよう！

気づいたこと(特徴)	感じたこと・分析
発声方法	
楽器	

次の時間に向けて 役割を決めよう。

*楽器・・・・・・・・・・・・・・() 使用楽器・役割・音の特徴

*謡・・・・・・・・・・・・・・() 役割・発声法など

*「道成寺」のストーリー・・・・()

*能の歴史・成り立ち・・・・・・()

自分の役割の中で、事前に調べたことや疑問
Memo

図9-2 ワークシート2

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう

△2時間目：能についての知識を深めよう

活動6 以下のテーマについて役割分担し、各エキスパートとして調べましょう。

*楽器・・・・・・・・・・・・・・() 使用楽器・役割・音の特徴
*謡・・・・・・・・・・・・・・() 役割・発声法
*「道成寺」のストーリー・・・・()
*能の歴史・成り立ち・・・・・・()

私は、.....のエキスパートです！

調べたことをまとめてみよう！(箇条書き・Memoで可)

活動7 他のテーマ内容をシェアし合い、能についてまとめてみよう

活動8 調べたことやシェアしたことを受けてあなたは「能」という伝統芸能に関して、改めてどのような印象をいただきましたか？

活動9 「乱拍子」の場面を鑑賞し、疑問に感じたことをメモしましょう

Memo → (※次日の授業において「乱拍子」についての疑問に感じたことについて調べておこう)

図9-3 ワークシート3

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう

△3時間目：体験や比較を通じて、能を客観的に鑑賞してみましょう

活動10 能の音楽を別の音楽と比較してみましょう！
音色、速度やリズムがもたらしている表現上の効果に着目して比較し、違いを見つけましょう。

息之舟の特徴	()の特徴	共通点	相違点
乱拍子の特徴	()の特徴	共通点	相違点

↓

Memo
比較して分かった能の音楽の特徴

図9-4 ワークシート4

活動 11 動画を見ながら… ※動画資料は音 I 全体の Classroom 参照

Step1: 舞に注目して鑑賞し、自分が舞を踏めるようにメモを取りましょう。
 Step2: 小鼓伴奏の視点になって鑑賞し、自分が演奏できるようにメモを取りましょう。
 Step3: 掛け声をよく聞きながら鑑賞し、自分が演奏できるようにメモを取りましょう。

↓

(吹き出し) 演奏の時間を
たくさん取ろう!

Memo	演奏するためのメモ	演奏してみて気づいたこと
舞	Step1	
小鼓	Step2	
声	Step3	

活動 12 今までの活動を踏まえて、能の音楽の特徴を記入しましょう!

図 9-5 ワークシート 5

シテ 春の夕暮。来て見れば

地鼓 ^{いりあい} 入相の鐘に花ぞ散りける花ぞ散りける花ぞ散りける

シテ さる程にさる程に。寺々の鐘

地鼓 月 ^な 落ち鳥啼いて霜雪天に。

^{みらしお} 満潮程なく日高の寺乃。^{こうせん} 江村の漁火。^{ごよくわ}

^{うれ} 愁ひに對して人々眠れば好き障ぞと。


立ち舞ふ様にて狙い寄りて撞かんとせしが。^{つかん}

思へばこの鐘恨めしやとて。^{りゅうず} 龍頭に手を掛け

飛ぶとぞ見え。引きかづきてぞ失せにける^う

図 9-6 ワークシート謡の歌詞

図 9 ワークシートは、総合教育センターWebページにてダウンロードできます。

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう | 時間目：能って何だろう？**活動 1** 能と聞いて、今ある知識や、自分の持つ率直なイメージについてあげてみましょう！

思いつくまま、箇条書き OK、正解を狙わなくてよし！

活動 2 能の一場面の音楽のみを鑑賞して、自分が普段聴いている音楽との違いについて書いてみましょう。

些細なことでも、気づいたことをたくさん書いてみよう（単語・箇条書き etc…）

活動 3 謡の歌詞を聞き取ってみましょう！

♪今から流れる謡を聴いて、クラスで協力して歌詞を完成させよう！



聴き取れた言葉をメモ

最終的に何と謡っていた？ → 「

」

活動 4 謡を体験してみましょう！**Step 1:** 歌詞を読んでみよう**Step 2:** 解析してみよう**Step 3:** 実際に歌ってみよう！

→ 音程（高くなる・低くなる）・テンポ（遅い・速い）・伸ばし・呼吸（ブレス）・区切り・強弱などを歌詞にメモを取りながら聴いてみましょう。

活動5 能の音楽を聴いたり(活動2のメモを見返してみよう!)実際に謡を体験したりして、改めて気づいたこと・感じたことを表にまとめてみよう!

気づいたこと(特徴)	感じたこと・分析
発声方法	
楽器	

次の時間に向けて 役割を決めよう。

* 楽器 (

)

使用楽器・役割・音の特徴

* 謡 (

)

役割・発声法など


* 「道成寺」のストーリー . . . (

)

* 能の歴史・成り立ち (

)

自分の役割の中で、事前に調べたことや疑問

Memo 

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう

🔔 2時間目：能についての知識を深めよう

活動6 以下のテーマについて役割分担し、各エキスパートとして調べましょう。

- *楽器・・・・・・・・・・・・・・() 使用楽器・役割・音の特徴
- *謡・・・・・・・・・・・・・・() 役割・発声法
- *「道成寺」のストーリー・・()
- *能の歴史・成り立ち・・・・・()



私は、 _____ のエキスパートです！


調べたことをまとめましょう！(箇条書き・Memoで可)

活動7 他のテーマ内容をシェアし合い、能についてまとめましょう



活動8 調べたことやシェアしたことを受けてあなたは「能」という伝統芸能に関して、改めてどのような印象をいただきましたか？

活動9 「乱拍子」の場面を鑑賞し、疑問に感じたことをメモしましょう

Memo  → (※次回の授業にむけて「乱拍子」についての疑問に感じたことについて調べておこう)

音色、速度やリズムを捉えて、能の音楽表現を味わおう


🔔 3時間目：体験や比較を通じて、能を客観的に鑑賞してみましょう

活動10 能の音楽を別の音楽と比較してみましょう！

音色、速度やリズムがもたらしている表現上の効果に着目をして比較し、違いを見つけましょう。

<small>きゅうのまい</small> 急之舞の特徴	()の特徴	共通点	相違点
<small>らんびょうし</small> 乱拍子の特徴	()の特徴	共通点	相違点



Memo 

比較して分かった能の音楽の特徴

活動 11 動画を見ながら… ※動画資料は音 I 全体の Classroom 参照


Step1 : 舞に注目して鑑賞し、自分が舞を踊れるようにメモを取りましょう。

Step2 : 小鼓奏者の視点になって鑑賞し、自分が演奏できるようにメモを取りましょう。

Step3 : 掛け声をよく聞きながら鑑賞し、自分が演奏できるようにメモを取りましょう。



実演の時間を
たくさん取ろう！

Memo 	実演するためのメモ	実演してみて気づいたこと
舞	Step1	
小鼓	Step2	
声	Step3	

活動 12 今までの活動を踏まえて、能の音楽の特徴を記入しましょう！

シテ 春の夕暮。来て見れば

地謡 ^{いりあい} 入相の鐘に花ぞ散りける花ぞ散りける花ぞ散りける

シテ さる程にさる程に。寺々の鐘

地謡 ^な 月落ち鳥啼いて霜雪天に。^{しもゆきてん}

^{みちしお} 満潮程なく日高の寺乃。^{こうそん ぎよくわ} 江村の漁火。

^{うれ} 愁ひに^{たい}對して人々眠れば好き隙ぞと。

立ち舞ふ様にて狙い寄りて撞かんとせしが。^{つかん}

思へばこの鐘恨めしやとて。^{りゅうず} 龍頭に手を掛け

飛ぶとぞ見えし。引きかづきてぞ失せにける^う